

IUHW



成田病院で行われたイルミネーション点灯式
(詳細は『施設インフォメーション』のP.11に掲載)

特集
1

新春のごあいさつ

高木邦格理事長

大友邦学長・三浦総一郎大学院長、各病院長・施設長

特集
2

笹沼澄子先生を偲ぶ会／ 業績とあゆみ



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長 高木 邦格

新型コロナウイルス 対策に総力

2022年を迎え、皆様にご挨拶を申し上げます。

本学グループは、本年も引き続き、世界中で感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症対策へ総力を挙げて取り組んでまいります。

本学のこれまでの新型コロナウイルスへの取り組みを振り返りますと、2020年2月、武漢から帰国した邦人用宿舎となった税務大学校と、横浜大黒ふ頭に停泊したクルーズ船ダイヤモンド・プリンセス号への本学からの医師・看護師・薬剤師の派遣にはじまり、2021年はグループ各施設の全教職員がそれぞれの施設で新型コロナウイルスワクチン接種対応に奮闘してまいりました。

5月からは各自治体住民の方々の集団接種を開始し、7月からの職域接種では、大田原、成田、東京赤坂、大川の各キャンパス、福岡国際医療福祉大学、国際医療福祉大学病院の計6か所で、本学の学生・教職員とその家族、企業関係者、近隣地域の学生を含む学校関係者を対象に接種を行いました。9月末時点の本学グループの累計接種回数は約18万回に達し、合計で約9万人に接種を実施した計算になります。

PCR検査体制は大量の検体発生に対応すべく、グループの病院合計で1日最大約5000件の処理能力を整えました。さらに、グループ内の病院で確保したコロナ病床数はピーク時で合計252床にのほりました。

こうした万全のコロナ対策の実現を可能としているのは、グループの全教職員が医療の最前線で懸命に闘っているからにはなりません。コロナ禍で、世間一般企業の多くの職種においてオンライン勤務が推奨されていますが、病院など医療福祉施設に勤務する私たちグループ教職員は、エッセンシャルワーカーとして、社会基盤・生活機能維持のため過酷な医療の最前線に立つことが避けて通れません。常に感染のリスクと対峙した環境のなか、誇りを持って命と暮らしを守る仕事に向き合い奮闘しているグループの全教職員に、改めて感謝を申し上げます。

学修環境を守る厳しい感染防止対策

昨年、本学の各キャンパスでは感染症対策に万全を期し、多くの授業を基本的に対面で行うという方針のもとにキャンパス運営を行ってまいりました。学生の成績を見れば明らかですが、やはり対面授業は学生の達成感が高い傾向にあり、より充実した指導が可能となります。コロナ禍とはいえ、学生や教職員のコミュニケーション不足をできるだけ防ぎ、学修環境を整えることは教育機関本来の役割です。

2020年度はやむなく中止した入学式も、2021年度は



成田キャンパスの新入生約600人全員に入学式前日にPCR検査を実施し、全員の陰性を確認のうえ実施いたしました。また、本学ではクラスター発生を未然に防止するため、臨床実習前に学生全員を対象として、学生の自己負担なしでPCR検査を実施しています。医療福祉の専門職の育成には、実践力を身につける臨床実習が欠かせない一方で、実習先施設で感染症を蔓延させるようなことは決してあってはならないためです。

職域接種への取り組みの成果もあり、2021年9月末時点の本学の学生の新型コロナウイルスワクチン1回目接種率は94.5%、2回目接種率も92.6%と高い水準に達しています。各キャンパスではワクチンの2回接種を条件に課外活動を再開し、大田原と成田の両キャンパスでは、大学祭をハイブリッド開催するなど日常を取り戻しつつあります。

学生のみなさんは、自分が厳しい医療現場に立ったとき、「何ができるか、何をすべき医療人になるのか」を常に自問しながら、医療福祉の専門職として必要な素養を身につけ、豊かな人間性を涵養してほしいと願っています。

創立30周年に向け新たなステージへ

日本初の医療福祉の総合大学として1995年に開学した国際医療福祉大学は、全キャンパスの在学生数が大学院生を含め約1万人におよび、これまでに卒業生約2万9千人を輩出してきました。地域医療への貢献はもちろん、グローバルに活躍する医療人も多く、国内外で高い評価をいただいております。創立30周年を間近に控え、2022年はさらなる飛躍のステージに進みます。

本年はいよいよ、2017年入学の医学部1期生が6年生となり、国際医療福祉大学が実践してきた医学教育の真価が問われる年となります。4月からは医学部の6年生全員を対象に、海外での臨床実習を実施すべく準備を進めています。そして彼らは2023年春、初の卒業生として国内外の医療現場へと羽ばたいていきます。世界水準を見据えた先進的な医学教育のもと、主体的に学びを深めるアクティブラーニングを実践してきた彼らの、国際感覚を備えた医師としてのグローバルな活躍が各方面から期待されています。

一方、本年はさらなる研究、教育、臨床の充実をめざし、新たな課題への挑戦にも邁進してまいります。まずは、医学部本院としての成田病院の機能の充実、栃木ブロックにおけるシミュレーションセンターの開設、大川キャンパスの再編成、大学全体の研究機能の強化等、アジアを代表する医療福祉の総合大学として、グループ全体としてのさらなる機能強化を図ってまいります。

新型コロナウイルスの収束の兆しは未だ見えず、本学グループにとっては引き続き試練の年となります。本年も教職員が一丸となってこの難局を乗り越えてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。最後に、新しい1年が皆様方にとって充実したよい年でありませうと祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

国際医療福祉大学学長 大友 邦

2022年の新春を迎え、皆様一言ご挨拶を申し上げます。

昨年引き続き新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るうなか、国際医療福祉大学では学生に対し徹底した感染症対策を行ってまいりました。グループ施設にいち早く感染の有無を調べるPCR機器を設置し、臨床実習前には実習学生全員にPCR検査を実施しているほか、唾液による新型コロナウイルスモニタリング検査を学生全員に実施するなど、感染症対策の強化を図ってまいりました。こうした対策のもとで、本学では昨年のほとんどの授業を対面で行ってまいりました。1日も早い収束を願いつつ、本年も学生と教職員が安全・安心に授業・実習に取り組める環境整備に邁進し、大学本来の役割を果たすべく努力を続けてまいります。

新型コロナウイルス対応のため、予定を前倒しして一昨年3月に開院いたしました国際医療福祉大学成田病院(千葉県成田市、642床)は、本学6つ目の附属病院であり、医学部をはじめとして本学の教育を支える重要な臨床実習の現場となっています。これまでも臨床実習の施設が国内で最



国際医療福祉大学大学院長 三浦 総一郎

新年を迎え、新春のご挨拶を申し上げます。

今年寅年ですが、寅は決断力と才知の象徴とされます。本年も新型コロナウイルス感染症により世界は依然として大きな危機と変革のなかにあります。ぜひ、ポストコロナの希望と繁栄をめざして力強い狼煙をあげたいと願っております。

本学大学院は本年4月で創設24年目を迎え、4つの研究科に医学や保健医療福祉学をカバーする51分野・100以上の多彩な領域やコースを有しており、昨年3月までの修了生は約4000名近くに達し(修士課程3568名、博士課程386名)、順調な運営を行っております。修了生のなかには専門学術団体や学会における役員を務めていらっしゃる方も多数おられ、本学大学院が「指導的役割をはたす高度医療専門職の育成」に長年努めてきた成果の賜物と自負しております。今後も修了生とのネットワークを強め、一段と研究の発展をめざしたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。



も充実し、教育の質の高い大学として高評価を受けてきましたが、成田病院の開院によりさらなる実習の充実が可能となりました。

医学部4年次から行われる臨床実習も一昨年スタートし、実習先の先生からは学生の患者様・他職種とのコミュニケーション能力の高さや症候から鑑別診断をあげる能力等医学的知識の豊富さについて高い評価をいただいております。これもひとえに学生が主体的に学習を進めるアクティブラーニングを基盤とし、世界水準を見据えた先進的医学教育を推し進めてきた成果と自負しております。

また、昨年4月には、成田キャンパスの位置する千葉県内における臨床工学技士の深刻な不足状況に鑑み、臨床工学技士を養成する「臨床工学特別専攻科」を開設しました。臨床工学技士は人工呼吸や人工心肺装置、血液透析装置などの操作や保守点検を行う専門職で、新型コロナウイルス感染症の重症患者への切り札とされる体外式膜型人工肺(E-CMO)を扱うことができる職種としても注目されています。また、同じく昨年4月、本学福岡看護学部が姉妹校の福岡国際医療福祉大学に移管され、「福岡国際医療福祉大学看護学部」と名称が変わり、新たにスタートいたしました。地域包括ケアシステムを支える看護実践力と国際的な視点を持った人材を養成し、地域の医療に貢献してまいります。

新しい年も教職員一同精いっぱい努力してまいります。一層のご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

現在、我々は人生100年時代を迎えつつあり、またSociety 5.0という「人と物と情報が瞬時につながるデジタル化した新時代」のなかで、生涯での二度三度の学び直しが必要とされ、大学院で学ぶことへのニーズが高まっております。本学では社会人が「働きながら学ぶ環境の提供」について開学以来特に配慮して利便性を高めてまいりましたが、今後も職業人への多彩な学びの機会を提案してゆきたいと考えております。

また大学院は医学部とも協力して、シンクタンクとして先進的な医学研究を牽引する役割をはたさなければならないと考えております。しかし、ICTやAIを活用したSociety 5.0のなかにあっても、あくまで中心は人間の結びつきとその創造性でなければならず、個々の学習者のニーズと能力に寄り添い個性を生かした柔軟な教育の提供を行なうとともに、社会への成果の還元と実装化をめざす大学院であるべきと思います。

大学院は大きな3つの方針を掲げて努力しております。一つは、イノベーションによる研究の質向上、一つは本学ならではの特色あるブランド化、そして良い教育・研究の伝統の未来への継承であります。今後も国際的な「知の医療交流拠点」としてしっかりと役割をはたせるように力を尽くす所存であります。

どうぞ本年も皆様のご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。

笹沼澄子先生を偲ぶ会

東京赤坂キャンパス講堂でしめやかに



研究と教育に心血を注いだ生涯

日本の言語聴覚分野の第一人者として、言語聴覚士の国家資格化に貢献し、2021年10月25日に92歳で逝去した笹沼澄子先生を偲ぶ会が12月25日、東京赤坂キャンパス講堂で故人にゆかりの深い方々約120人を集めてしめやかに開かれた。

笹沼澄子先生は、国際医療福祉大学開学にあたり、創設メンバーの1人として尽力され、初代言語聴覚学科長を務められた。日本人初の言語病理学博士として、言語聴覚士の国家資格化の実現へ向け全身全霊を傾けられ、優秀な言語聴覚士の育成に心血を注がれたほか、失語症の研究で世界的な功績を残されたことでも知られる。開式にあたり、そうした生前のご活躍を伝える映像が流され、1分間の黙とうが捧げられた。



●講堂のステージ上には無数の花で飾られた祭壇が設けられた

その後、会が高木邦格国際医療福祉大学理事長の弔辞へとうつると、正面スクリーンには笹沼先生との思い出を振り返る写真スライドが映し出された。

高木理事長は、「笹沼先生に最初にお目にかかったのは開学の3年半前の1991年秋。初代言語聴覚学科長の就任を依頼するため、当時、笹沼先生が顧問研究員として勤めていた東京都老人総合研究所を訪れた」と、初対面時のエピソードを披露。アメリカで学んだ笹沼先生のような日本のトップリーダーの先生方とともに、コメディカルの分野でリーダーとなる人材を育てたいという、大学づくりのコンセプトを説明すると、「笹沼先生はすぐに、やりましょう、と快諾してくれた。先生のようなすっきりした方は男性にもなかなかいない」と故人の人柄を偲んだ。

また、開学前の1994年に、ともに訪れた米国視察についても振り返った。「笹沼先生の母校であるアイオワ大学を訪れると、最先端の臨床施設が備わっていただけでなく、施設の責任者である言語療法の博士が、医師以上の処遇



●笹沼先生との思い出を振り返る高木理事長

を受けていた。それには大変驚いた」と振り返り、「本学にも臨床施設を作ってほしいという笹沼先生からの要望があった。笹沼先生に頼まれると私は弱いので」と、笹沼先生との米国視察が言語聴覚センター設立の契機となったことを紹介した。

ゆかりの深い方々とともに遺徳を偲ぶ

続いて、香取幸夫音声言語医学会理事長が「現在指導的立場にある先生方は皆、笹沼先生のご指導を受けた。先生がいっしょにやらなければ、現在の学会活動はなしえなかった」と功績を讃えた。また、森浩一国立障害者リハビリテーションセンター



●ゆかりの深い方々によって献花が行われた

総長は、「日本の言語聴覚分野のすべての研究は笹沼先生のおかげと言っても過言ではない」と述懐。一方、国際医療福祉大学大学院教授でもある深浦順一日本言語聴覚士協会会長は、「先生の期待に応えられるよう、障害のある人への支援を進めたい」と決意を語った。藤田郁代国際医療福祉大学大学院教授は「45年前、先生の講義で言語病理学の面白さと深淵さを知り、この道を極めたいと思った。ありがとうございました」と謝意を述べた。本学の1期生である平田文国際医療福祉大学准教授は1995年の入学時には言語聴覚士が国家資格ではなかったことを踏まえ「1997年の国家資格化決定時の笑顔は忘れられない」と振り返った。英ケンブリッジ大学パターンソン名誉教授の弔辞は、城間将江国際医療福祉大学大学院副大学院長が代読し、「先生のおかげで諸外国の研究者も漢字と仮名の読み障害に関する研究を知ることができた。学会発表でも賞賛を受けていた」と国際的活躍を紹介。25年間の交流を振り返り「澄子は私の恩師で、敬愛する先生で、友だ」と結んだ。

最後に、遺族代表で実妹の木村淳子さんが「改めて姉の研究の一端を知ることができた。姉の研究が少しでも皆様のお役に立てるなら、これ以上ない喜びだと思う」と話した。

その後、参列者による献花が行われた。会場には、生前の写真や関連資料、著書などが多数飾られ、故人をしのびながらの懇談が続いた。



●会場には在りし日の笹沼先生の写真パネルも

笹沼 澄子先生 略歴 1929～2021 (昭和4年～令和3年)

1929年	9月13日 東京都杉並区 生まれ
1953年	津田塾大学学芸学部英文学科 卒業
1959年	アイオワ大学大学院言語病理学科専攻 修士課程修了 言語病理学修士授与 国立聴力言語障害センター言語科 主任
1964年	長野県厚生連鹿教湯温泉療養所言語治療室 非常勤顧問
1968年	メイヨークリニック言語病理学科 特別研究生 アイオワ大学大学院言語病理学科専攻 博士課程修了 言語病理学博士授与
1969年	神奈川県老人福祉事業団七沢病院言語治療室 非常勤顧問
1971年	東京大学医学部音声言語医学研究施設 兼任講師 国立聴力言語障害センター附属聴能言語専門職員養成所 非常勤講師
1972年	東京都老人総合研究所言語聴覚研究室 室長
1978年	横浜国立大学教育学部 教授
1983年	東京都老人総合研究所リハビリテーション医学部 部長
1990年	東京都老人総合研究所 顧問研究員
1994年	学校法人 国際医療福祉大学 理事
1995年	国際医療福祉大学保健学部言語聴覚障害学科 教授・学科長
1997年	国際医療福祉大学クリニック言語聴覚センター センター長
1999年	国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科 保健医療学専攻 教授・専攻主任
2004年	国際医療福祉大学 名誉教授 社会福祉法人 邦友会 理事
2021年	10月25日 逝去 (享年92歳)

役員歴

- 日本言語聴覚士協会 名誉会員
- 日本聴能言語士協会 初代会長
- 日本音声言語医学会 理事、評議員、言語委員会委員長、顧問
- 日本リハビリテーション医学会 評議員
- 日本神経心理学会 理事、評議員、編集委員、名誉会員
- 日本高次脳機能障害学会 理事、評議員、編集委員、名誉会員
- 国立国語研究所 評議員
- Academy of Aphasia Honorary Member

国際学術誌のEditorial Board Member歴

- Aphasiology
- Asia Pacific Journal of Speech Language and Hearing
- Behavioral Neurology
- Cognition
- Journal of Clinical Linguistics and Phonetics
- Journal of Neurolinguistics
- Neurocase
- Reading and Writing
- Written Language and Literacy



●1959年 アイオワ大学大学院留学時代



●1959年 アイオワ大学留学時代のアジア学生交流会



●1964年 Dr. M Taylorと鹿教湯温泉療養所で言語治療を開始



●1986年 IALP (国際音声言語医学会)での講演、スタンディングオベーションを受ける



●1990年 Dr. E Kaplan, Dr. B Wilsonと



●1991年 盟友の研究者Dr. K Pattersonと



●1994年 国際医療福祉大学開学前の教員説明会

新型コロナウイルス感染者の半数に変異株

ゲノム医学研究所のゲノム解析で判明

新型コロナウイルス感染者の半数近くは、体内に少量の変異したウイルスがあるという分析結果を、本学ゲノム医学研究所(※)の辻省次所長のチームがまとめた。大半の変異は無害で影響は小さいと考えられるが、新たな変異株の出現を防ぐため、感染者を減らす重要性を裏付ける結果だ。

新型コロナは2週間に1回のペースで、元のウイルスと少しだけ遺伝情報が違う変異株が誕生し、まれに感染力が強い変異株が生まれることがある。チームでは最先端の遺伝情報解析装置を使い、2021年7月末までに感染者から採取した768検体を調べ、含まれる新型コロナウイルスの全遺伝情報を比較した。

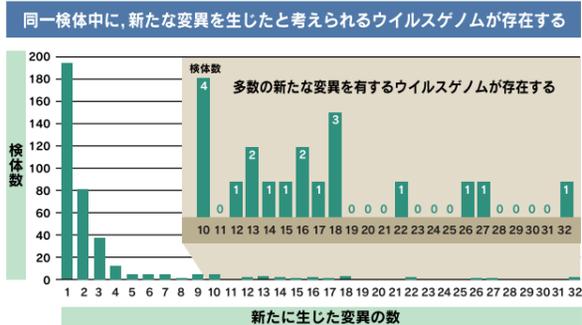
その結果、同一人物の検体で、遺伝情報が少し違う変異株を含む検体は47.4%に上った。遺伝情報が1か所違う変異を含む検体は25.3%、2か所は10.7%、3か所は4.8%だった。ただ変異株の量は全体の数%と少なかった。

遺伝情報の中でも、新型コロナウイルスが人の細胞に感染する時に使う「突起」の遺伝情報が変異すると、感染力や病原性が変わる危険がある。今回の検体では、突起部分の変異だけで約130種類に上った。

変異が多数含まれるオミクロン株が世界的に感染拡大しており、ゲノム医学研究所では、オミクロン株の検査法を確立して、検査を実施できるようにしている。

辻所長(分子遺伝学)は「新型コロナウイルスは変異の頻度が高く、変異が蓄積する背景が裏付けられた。一人ひとりが感染予防に努め、病原性が強い『日本株』を生まないことが大事だ」と話している。

※本学のゲノム医学研究所は世界最高水準のゲノム解析研究と疾患の発症原因を解明する目的で2018年4月、成田キャンパス内に発足した。初代所長は辻省次・元東京大学ゲノム医学研究機構長。



結紮・縫合コンテスト「結紮王」を開催

福岡シミュレーション医学センターで

皮膚モデルを使った傷口の真皮縫合および結紮の技術を競うコンテスト「結紮(けっさつ)王」が12月6日、福岡シミュレーション医学センターで開かれた。外科医などをめざす高木病院の臨床研修医15人が日ごろの研鑽の成果を披露した。

福岡シミュレーション医学センターは、本学が高木病院との連携により、2017年に病院本館に開設した。医療従事者をめざす本学の学生や病院内の医療専門職が最新シミュレータ機器を用いて安全で質の高い医療を行うための卒前・卒後・生涯教育を実施している。



●真剣な表情で縫合技術を競う

「結紮王」は、同病院の藤本一眞臨床研修委員長が監修、下西智徳副院長・外科部長が審査委員長を務めるイベントで、中山紫季同センター研修教育室長のルール説明の後、外科系指導医による厳しい審査が行われた。見事1位に輝いたのは、研修医2年目の野中祥太郎さん。

「こうしたアクティビティを通して、研修医のさらなる奮起を期待したい」と小島加代子副院長・センター長は話す。本学でも、引き続き、大川キャンパス各学科の教育カリキュラムに、同センターを利用するカリキュラムを積極的に導入していく。

小田原市と国際医療福祉大学

代表者懇談会を開催

小田原市と国際医療福祉大学の代表者懇談会が11月29日、小田原市観光交流センターで開催された。年に1度定例で開催され、市との協力関係を深めている。

参加したのは、小田原市から守屋輝彦市長、鳥海義文副市長、玉木真人副市長を含め10人。本学からは、大友邦学長、鈴木康裕副学長、池田佳史熱海病院院長、黒澤和生小田原保健医療学部長、熊谷たまき看護学科長、森田正治理学療法学科長、藤本幹作業療法学科長ら10人が出席した。

小田原市が進めてきた市民ホール整備事業の一環で、9月に市観光交流センターに隣接して「小田原三の丸ホール」が完成。会議に先立ち、大友学長はじめ本学関係者が守屋市長の案内でホールを見学した。

守屋市長には今年度も新入生に地域の歴史、文化等に関して本学で講義を行っていただいた。一方、本学部教員は市の支援教育相談や子育て支援事業などさまざま



●守屋市長(中央)から説明を受ける本学関係者

黒澤学部長からは臨地実習を含めた教育課程全般について今後もご意見・ご提言をいただきたい旨を市にお願いし、市と大学が積極的に連携を取っていくことが確認できた。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委から感謝状

東京オリンピック・パラリンピック競技大会で、本学が開催に多大な貢献があったとして、同大会組織委員会から感謝状を贈られた。特に、出場選手のドーピング検査に、成田保健医療学部医学検査学科の教員・学生が協力したことに対して、同委の担当幹部が本学を訪れ、謝意を表した。



●本学を訪れた芝紀代子・大会運営局アドバイザー(前列右)と大友学長ら

参加校最多の46人がドーピング検査に対応

本学は期間中、延べ71人の医師を競技会場に派遣し、医療対応にあたった。また同大会では、五輪史上初めて、学生が中心となったドーピング検査チームが結成され、関東地



●贈られた感謝状

方の5大学と、検査設備を持つ臨床検査企業が、組織委の協力要請に応じた。臨床検査技師をめざす計140人の学生が24時間・3交代制のシフトを組み、指導役の教員とともに大量の検査に対応。本学からは5校中で最多の同学科3、4年生46人と、教員4人が参加した。

チーム全体では一日最大で約400件の検査を行い、オリンピックでは延べ6500件、パラリンピックでは同1500件ほどの検体を調べたという。

本学を訪れた同委の芝紀代子・大会運営局アドバイザー(文京学院大学名誉教授・薬剤師・臨床検査技師)は「WADA(世界ドーピング防止機構)から高い評価を受けた。臨床検査の教育にも重要な役割が果たせた」と謝意を伝えた。これに対し大友邦学長は「検査体制がうまくいった良かった。学生のモチベーションも上がった」と応えた。

医学部5年生、USMLE Step1に相次ぎ合格

米国での医師国家試験にあたるUnited States Medical Licensing Examination (USMLE)のStep1に本学医学部5年生の堀莉野さんが合格した。この試験は臨床実習前に合格することが求められるStep1と、米国の医学部3年次の臨床実習科目(内科、外科、家庭医療など8診療科)について課されるStep2 CKに分かれるが、Step1にはすでに同学年の宮下渚さんが合格しており、今年度2人の合格者が相次ぎ誕生した。



●水曜日の午後、成田キャンパスで開かれているUSMLE Seminar

堀さんは「海外留学にあこがれており、チャンスがきたときすぐに行けるよう、また自分の可能性を少しでも広げるために、時間の余裕がある学生のうちに受験しようと思った」と話している。

本学医学部は「医療の国際化に対応した幅広い知識と高いコミュニケーション能力を持ち、海外の医療現場で活躍できる」ことを卒業までに身につけるディプロマポリシーの1つに掲げており、USMLEに合格できる医学知識と医学英語のスキルを獲得できるカリキュラムが組まれている。

1、2年次の各英語科目でUSMLEの概要を学ぶのははじめ、水曜日の午後には希望者を対象としたUSMLE Seminarが開講されている。ここではStep1の問題を使って基礎医学などの必修科目を臨床的な視点から学ぶほか、日本の医学教育では扱われることが少ないStep1特有のトピックも取り上げるなど、本学ならではの取り組みが実践されている。

スターバックスコーヒーとコラボ

障害者支援施設 サポートハウス那須 通所者の切り絵作品を店内に展示

主に身体に障害がある方の健康管理や身体介助、日中活動の場の提供を行っている障害者支援施設、サポートハウス那須の通所サービス利用者によるハロウィンをテーマにした切り絵アートが10、11月にスターバックスコーヒー大田原美原店に展示され、好評だった。

通所の利用者たちもなじみのある店で、作品掲示が実現すれば励みになる、と同施設が大田原美原店に持ちかけたところ、快諾を得た。2020年12月から始まり、これまでに1、2月にはバレンタインをテーマに第2弾、桜をテーマにした第3弾を3月に、第4弾は6月下旬にスターバックス日本上陸25周年を記念して掲示された。



●スターバックス店内に展示された切り絵アート

通所者に創作意欲も

新型コロナウイルス感染の拡大でしばらく中断したが、感染の落ち着きもあり、久しぶりの展示となった。展示開始の際にはサポートハウス那須の職員と利用者が大田原美原店を訪問。アシスタントマネジャーの山室さんから「完成度が高く、きれいだった」とおほめの言葉もあり、通所者たちの創作意欲にも火が付いたようだった。通所の利用者たちは「次回は1月に、賀正をテーマに展示を」と話している。

大田原キャンパス

薬学科の村田さんに警察署から感謝状

薬学部薬学科3年の村田茜さんが、アルバイト先で特殊詐欺を防いだとして12月1日、大田原警察署より感謝状が贈呈された。

村田さんは10月16日、アルバイト先のコンビニ店「ファミリーマート大田原南金丸店」でレジ業務に従事していたところ、店頭でメモを持った80歳代の女性客が現れ「4万円分のWebMoney(電子マネー)がほしい」と声をかけられた。い



●大田原署で表彰状を手にする村田さん

ったんカード売り場まで案内したものの、不審に思い、同僚のパート従業員に相談して警察に通報、被害を未然に防いだ。大田原署から感謝状を贈呈された村田さんは「余計なことをしているのでは、と不安でしたが、結果的におばあさんが被害にあうのを防げて良かった」と振り返り、「少しでも怪しいと感じたら積極的に声をかけていきたい」と語った。

薬剤師をめざして勉強している村田さんは「改めて人と人とのつながりや、コミュニケーションの重要性を感じた。この経験を踏まえ、患者さんや同僚の方とのつながりを大切にして、コミュニケーションができる薬剤師になりたい」と話している。

(入試広報室 川上二郎)

第120回理学療法科学学会学術大会を開催

第120回理学療法科学学会学術大会が11月6日、大田原キャンパスで対面とオンラインのハイブリッドで開催された。

理学療法科学学会は、理学療法に関する科学の発展と知識の普及を図り、学術文化の発展に寄与することを目的として設立された学会で、本学大田原キャンパスの初代理学療法学科長で福岡国際医療福祉大学副学長である丸山仁司先生が会長を務めている。今大会は、大田原キャンパス理学療法学科の糸数昌史教授が大会長を務めた。

今大会は「遠隔リハビリテーションの現状と未来」をテーマに、一般演題のほか特別講演やシンポジウムが行われた。特に最先端技術の第一線で活躍されている先生方の特別講演やシンポジウムは、これからの理学療法士が果たすべき役割を考えさせるものとなった。また会場の参加者からも活発な発言があった。

一般演題では、大田原キャンパス理学療法学科からも学生3人が演題を発表した。緊張した雰囲気の中の発表だったが、質疑応答もしっかりできており、学生には貴重な機会となった。



(入試広報室 川上二郎) ●学術大会での学生発表の様子

成田キャンパス

医学部5年の村井花奈さん
日本解剖学会関東支部会から「大会長賞」

日本解剖学会の第109回関東支部学術集会が9月11日に開催され、報告に立った本学医学部5年生の村井花奈さんが、学生のすぐれた研究発表に与えられる「大会長賞(学生部門)」を受賞した。

日本解剖学会は、明治26年(1893年)に創設された伝統ある学会。オンラインで開かれた集会で、村井さんは難病の筋ジストロフィーに関して香川大学の研究者らと共同研究を進めてきた「Rabファミリー低分子量Gタンパク質による膜修復機構」を発表し、「内容、プレゼンテーションともに大変優秀」として最高の栄誉である賞を授与された。

村井さんは、成田キャンパスの学生サークル「基礎医学研究会」に所属し、顧問である基礎医学研究センターの三宅克也教授の指導で研究に取り組んでいる。学術集会では、村井さんを含め計4人の本学学生が研究成果を報告した。村井さんは、「実験をさらに繰り返し、細胞生物関係の英文誌に投稿したい」と語っている。

(総合教育センター 山本秀也)

医学部5年の立花都和さん
同時通訳「コンテスト」で3位入賞

第35回日本脳神経外科国際学会フォーラム(JNEF)とともに、11月12、13日にオンライン開催された第34回JNEF・日本脳神経外科同時通訳夏季研修会で、本学より参加した医学部5年生の立花都和さんが、日本語から英語への通訳技能で高い評価を受け、3位に入賞した。

学術活動の国際化を支えるため、JNEFでは会員有志約70人で作る「同時通訳団」がシンポジウムで主に日本語から英語の同時通訳を務めており、研修会はこの通訳技能を備えた将来の会員獲得も視野に入れ、2日間の日程で日英両言語の通訳実技を指導し、最終日に参加者の評定を集計して表彰を行っている。

オンラインでの研修会には30人あまりが参加したが、現役の医学生は、立花さんのほか、二瓶美緒さん、井上愛さんと、本学医学部の5年生3人のみで、他の参加者は現職の脳神経外科医ばかり。即戦力が問われる研修会だったが、立花さんは基礎医学と臨床を含む「脳神経外科領域」と「時事問題」の日本語の講演をそれぞれ英語で伝える実技に挑み、審査員を務めた同時通訳団の先生方からその実力を評価された。

立花さんは「貴重な体験をさせていただきました。初めてのことだったのでとにかく話して慣れようという気持ちで挑みました。3位をいただきとても驚いています」と研修会を振り返った。

(総合教育センター 山本秀也)

東京赤坂キャンパス

市民公開講座『「ポスト・コロナ時代」と
文明のゆくえ』を開催

今年度5回目の市民公開講座が12月11日に開催され、本学大学院の木村伊量特任教授(元朝日新聞社代表取締役社長)が登壇した。130人近い方に聴講いただき、コロナ禍以降の市民公開講座としては最大の参加者数となった。

「世界的なパンデミックである新型コロナウイルスの蔓延は、文明的な問いをわたしたちに突きつけているのではないか」という主題のもと、豊富な知識と経験に基づいた語り口に参加者は聞き入っていた。

第2次世界大戦以来のグローバル危機であるコロナ禍は、人々の暮らしや意識・行動を変えた。地球レベルの意識の広がりという希望的な見方がある一方で、政府による断固とした封じ込め対策は、個人の権利など民主主義の基本原則がなごりにされる危険があると指摘した。

また細菌やウイルスは根絶すべき相手と捉えるのではなく、長い時間をかけ「共生」をめざすべきと説いた。参加者からは、「今までの不安が安心や希望に変わった」などの好評の声が多数寄せられた。

(事務部 井上大輔)



●今年度5回目の市民公開講座

大川キャンパス

テレビCM大川キャンパス編
学生、教員が大活躍!

大川キャンパスでは、今年も特待奨学生特別選抜に向けたテレビCMを制作。11月13日から30日までの間、福岡と、地方試験会場のある佐賀、大分、鹿児島、沖縄各県の計5県11局で、全学科編、作業療法学科編、言語聴覚学科編の3本を放映した。

これに先立ち、作業療法学科、言語聴覚学科のシーン撮影を行い、多くの学生、教員が出演。学科の魅力を大いにアピールした。

撮影当日は、学生たちの清潔感あふれるさわやかな笑顔を引き出すために、ヘア・メイクのプロも待機。学生たちは、初めての体験に緊張しつつも、これから医療福祉の道を志す後輩たちへ少しでも大川キャンパスの良さや学びの楽しさを伝えようと、さまざまなシーンで活躍してくれた。

(入試学生募集課 帆足リエ)

小田原キャンパス

第16回運動会開催

小田原キャンパス城内校舎で11月27日、第16回運動会が開催された。今年度は新型コロナウイルスワクチン2回接種済みであることを参加条件に1、2年生の希望者約100人が参加した。例年は終日実施していたが、コロナ禍を考慮し、午前中のみの実施となった。

黒澤和生小田原保健医療学部長の開会のあいさつから始まり、参加学生は感染対策を行ったうえで、1、2年生の学年の枠を超えたチームを編成。「サッカー」、

「バスケット3 on 3」、「テニス」のなかから希望した種目に参加した。最後に希望者による学年対抗「リレー」が行われた。各種目



●サッカーで優勝した1・2年合同チーム

で優勝チームが表彰され、参加学生の笑顔がはじけた。開催まで運動会実行委員の学生が打ち合わせを重ね、競技種目、各種目のルール決定といった企画、チーム編成等の準備を行ってきた。参加学生からは「久しぶりに運動ができ、とても楽しかった」、「運動を通して、お互いの笑顔を見ることができ、うれしかった」などの感想があり、充実したイベントとなった。閉会式では、企画・運営に携わった運動会実行委員の学生に、参加した学生から温かい拍手が送られた。

(学務課学生係 浅田朱加里)



国際医療福祉大学病院

オリパラ交流事業を
振り返る展示会を開催

当院のある那須塩原市は、東京オリンピック・パラリンピックでオーストリアのホストタウンを務め、誰もが住みやすい街づくりを推進する「共生社会ホストタウン」として交流事業を行ってきた。同じ敷地内にあり、患者様やご家族の滞在にも利用されたグループ関連施設「那須マロニエホテル」も同事業に参画。トライアスロンの事前合宿では、オーストリア選手ら5人を受け入れた。

このような背景において11月26～28日の3日間、那須マロニエホテルでは同国との交流を振り返る展示会が開催され、パラリンピック選手と地元小中学生のオンライン交流や事前合宿の写真、聖火リレーのトーチ、那須塩原市出身で車いすテニス男子ダブルス4位入賞の真田卓選手寄贈のラケット等が展示された。また、併催のスイーツフェアでは、地元の高校生が代表選手のために考案したオリジナルケーキも提供され、会場のにぎわいに花を添えた。(総務課 中澤彩乃)



●オリパラ事業を振り返る写真と記念品が飾られた会場

国際医療福祉大学塩谷病院

矢板・塩谷地区の児童・園児を
対象に手洗い教室を実施

当院では毎年矢板・塩谷地区の小学校・幼稚園・保育園を訪問し、「手洗い教室」を行っている。

10～12月にかけて、看護師3人がチームを組み、約20の施設を訪問。合計で約900人の園児・児童に指導を行った。イラストや写真のスライドを用いて、手洗いやうがいの大切さ、マスクの付け方をわかりやすく伝えるとともに、「うさぎとかめ」の歌にあわせて正しい手洗い方法を紹介。子どもたちがブラックライトに反応するクリームをばい菌に見立てて手に塗った後、正しい手洗いに挑戦した。その後、ライトに手をかざして洗い残しを確認し、実践した子どもたちは、洗い残しが意外に多いことに驚きの声を上げていた。今後も活動を継続し、子どもたちに手洗いやうがいの大切さを伝えていきたい。(総務・人事課 小室秀明)



●手洗い教室で熱心に話を聞く子どもたち

国際医療福祉大学成田病院

成田市寄贈のイルミネーション点灯式と
予防医学センターの市民公開講座を開催

成田市と地元電設会社から、敷地内をイルミネーションすることで医療従事者に対する感謝と応援につなげたい、というお申し出をいただき、12月6日に点灯式を行った。小泉市長・関根副市長、県・市議会議員などが来院され、宮崎病院長と副院長らが出席のもと約5万球の電球が点灯、患者様などから一斉に歓声が上がった。イルミネーションは2月14日まで点灯する。

12月4日には、予防医学センターの市民公開講座を開催、山崎力センター長と笠原英子教授が、「元気で健康に生きるためのコツ」をテーマに予防医学の重要性について講演を行った。講演後には280人の参加者のうち事前に希望を募った230人以上が、予防医学センターとプール・ジム・サウナなどを完備する健康増進センターを見学、その規模と充実した設備に驚かれていた。次回の市民公開講座は2月19日(土)、腎泌尿器外科による「男性更年期から前立腺がんまで」(詳細は裏表紙ご参照)。(広報室) ●市民公開講座で講演する山崎センター長



国際医療福祉大学市川病院

善田督史主任が「第7回 呼吸理学療法
学会学術大会」で「優秀賞」を受賞

当院の理学療法士、善田督史主任が「間質性肺疾患患者の持久力に関する演題」で「第7回呼吸理学療法学会学術大会」の優秀賞を受賞した。

間質性肺疾患(ILD)患者様において、6分間歩行試験は病態を把握するうえで重要な検査だが、そのルーティンワークのなかで得られる検査結果から、低酸素血症や呼吸困難の重症度別の特徴を検証できないかという着眼から本研究を行うことに。ILD患者様に対する呼吸リハビリテーション領域での研究は解明されていない点も多く、その病態の複雑さから研究が行き詰まることもあったそうだ。

善田主任は、「呼吸器内科やリハビリテーション科の先生から多くのご助言をいただき、導いていただきました。今回受賞できたのも、諸先生方から指導をいただいたおかげです」と謝意を述べた。続けて、「今後も研究を継続、発展させていき、ILD患者さんのQOL改善そして生命予後改善の一助になれば」と抱負を語った。(総務課 細田幸生)

●賞状を手にする
善田督史主任

国際医療福祉大学熱海病院

大地震を想定した災害対応訓練を実施

2021年度の災害訓練が11月20日に行われた。2019年に災害拠点病院に指定された当院は、今年の7月に発生した土石流災害で複数の傷病者を受け入れた。訓練当日は約130人の職員のみならず、模擬患者として小田原保健医療学部の学生39人が参加した。

訓練では、熱海市消防本部の協力で準備いただいた救急車を使用し、患者の搬送訓練も行われた。会議室には災害対策本部、外来受付付近に指揮所を設置し、オンラインで結ぶことで情報の連携を図った。大規模災害の発生を想定した緊張感が漂うなか、参加者は真剣な表情で取り組んだ。

先立って11月11日にはエマルゴ訓練(机上訓練)を行った。一連の訓練を通して、災害への意識の向上、日ごろから災害対策の準備をする必要性、情報伝達の重要性を再認識するとともに、地域の中核病院としての役割が多岐にわたることを改めて確認する機会となった。

(総務課 木村玲於奈) ●救急車からの模擬患者に対する治療の様子



山王病院・山王バースセンター

山王病院・山王バースセンターのお産

従来、当院は「お産の山王」として皆様に親しまれてきた。昨年1月には藤井知行病院長が着任し、4月には山王病院・山王バースセンターともに無痛分娩が24時間対応になるなど、産科医療体制を一層充実させるべく強化を図ってきた。

コロナ禍で出生率低下が危惧されている昨今だが、おかげさまで両院の分娩件数は、2020年度は1,250件、2021年度には1,500件と着実に成長を続けることができている。また、Web

版母親学級をはじめ、産科や不妊治療を中心とした健康講座をWebで展開し、感染対策に留意した積極的な情報発信に努めている。今後も両院が一丸となって、安心で安全な、山王ならではの思い出に残るお産をご提供できるよう、さらなる進歩を続けていきたい。(山王病院 総務課 山本悦子)



●胎児ドック

国際医療福祉大学三田病院

「第一回 消化器センターオンライン地域医療連携協議会」を開催

12月10日、三田ホールにおいて「第一回 消化器センターオンライン地域医療連携協議会」を開催。新体制となった消化器センターを紹介した。

第一部では、消化器センター長の篠田昌宏副院長より、内科・外科の充実した協力体制のもと診療が行われている当院のセンター方式をご案内。続けて、消化器内科の正岡建洋内科部長の講演を行った。「発がんリスクとしての酸関連疾患 ～治療困難例への対処を含めて～」と題し、高齢化が進み年々増えている逆流食道炎について説明した。

第二部では、消化器外科の加藤文彦医師より「三田病院における上部消化管外科手術の現状」について講演。各専門医がそろそろ厚い体制についても紹介した。積極的な質疑応答の後、医療連携部長の坂本昌也内科部長より、さらなる連携の強化、外国人患者の受け入れについて案内し閉会した。(地域医療連携室 音丸秋子)

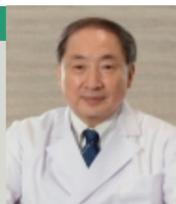


●オンラインによる協議会の様子

国際医療福祉大学成田病院

病院長 宮崎 勝

千葉大学卒、医学博士。前国際医療福祉大学三田病院病院長。元千葉大学大学院医学研究院臓器制御外科学教授、同大附属病院長・副学長。第112回日本外科学会会頭、日本肝胆膵外科学会名誉理事長。第49回日本胆道学会会長。



2年目を迎える当院は、2020年3月のコロナ禍による緊急開院以来、コロナとの闘いと一般医療体制構築の両立に全職員とともに奮闘してまいりました。2021年11月には外来受診患者数も1,000人を超え、これも全職員の尽力とグループ内病院からのご支援の賜物です。運用病床数はまだ300床程度ですが、2022年度中には全

642床に近づけるよう一層の体制整備を図ってまいります。また新型コロナウイルスの収束が完全には見通せない状況のため、当院のミッションの1つであるアジアを代表する国際的な病院としての医療機能・病院運営は足踏み状態ですが、2022年度中には海外の患者様を受け入れられたらと願っております。一方、地域医療における当院の役割として、周辺医療機関や住民の方々から徐々に認識されつつあり、千葉県印旛医療圏のみならず、茨城県南部地域や房総半島からも多くの方々にご来院いただけるようになりました。今後もスタッフ一丸となって良質な医療チームを構築し、高度急性期医療施設としてのさらなる医療の質向上に向けて取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学病院

病院長 大和田 倫孝

山形大学卒、医学博士。前自治医科大学産婦人科准教授。日本婦人科腫瘍学会認定指導医・婦人科腫瘍専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、日本がん治療認定医機構がん治療専門医。



昨年は、新型コロナウイルス感染症の波が1月、5月、8月にありました。特に8月の第5波では、栃木県においても感染者が急増し、感染者の受け入れに強い危機感を感じました。しかしながら、当院においては日常診療への影響は最小限に抑えられ、結果的には売上高は昨年を上回り、さらに忙しいなかで那須地区住民に対するワクチン接種にも貢献しました。職員の尽力に感謝いたします。医学部生の臨床実習は今年で3年目を迎え、来年3月には一期生が卒業し、社会に羽ばたきます。一期生のほぼ全員が当院で臨床実習を行っており、彼らの中から、将来この地域で活躍する医師が誕生し、医師不足が解消されることを期待したいと思います。本年も当院の発展、地域への貢献に努めてまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

国際医療福祉大学三田病院

病院長 山田 芳嗣

東京大学卒、医学博士。東京大学大学院麻酔科学教授、横浜市立大学医学部麻酔科学教授、日本麻酔科学会第61回学術集会会長、日本麻酔科学会副理事長を歴任。本学副学長。

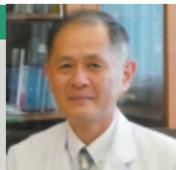


昨年は新型コロナウイルス感染症の猛威が吹き荒れ、医療の現場では終始過大な対応に追われる一方で、社会的活動が極度に制約された極めて困難な1年でした。そのなかでも当院は、職員が一致結束して全力で医療に従事し、積極的な診療を推進して大きな成果を上げることができました。感染者が激増した第5波では、重症化リスクの高い中等症を中心に、専用病棟で1日20数人の入院患者様の治療にあたりました。港区のワクチン集団接種も、当院で毎日およそ400人の接種を行いました。さらに、昨年からの最重点課題である救急の応需に取り組み、1年間の救急車受け入れ件数1,500件を達成しました。本年も救急医療を推進し、手術や放射線治療など専門性の高い医療に注力し、皆様に安心・安全を提供する急性期病院として尽力してまいります。さらなるご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学塩谷病院

病院長 須田 康文

慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学病院整形外科診療科副部長、国際医療福祉大学三田病院整形外科部長を歴任。日本整形外科学会認定整形外科専門医。



当院は、塩谷地区2市2町医療圏における基幹病院として、「地域の医療を支え、住民の健康をお守りする」という責務を担っております。昨年は、COVID-19と対峙しながら、通常診療をいかに守るかが大きな課題となった1年でした。当院では、発熱外来での遺伝子検査やリスクチェック等を積極的に行い、感染防止ゾーンングを徹底することで、いわゆる第3波、第5波に対しても職員が一丸となって対応し、一般診療の継続を可能としました。対外的には、当院のDMATチームが、栃木県下で発生した病院クラスター事例への支援も行っています。27診療科31人の常勤医師を中心に、COVID-19対策を徹底しつつ、行政や医師会と協力しながら、引き続き地域に根ざした中核病院として尽力してまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学市川病院

病院長 大谷 俊郎

慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学名誉教授・前医学部整形外科教授・医学部スポーツ医学総合センター教授・看護医療学部教授。日本整形外科学会認定整形外科専門医・スポーツ医・脊椎脊髄病医。The Best Doctors in Japan(2018~2020)



昨年は、当院も新型コロナウイルスの感染拡大に翻弄された1年でありましたが、呼吸器内科チームを中心に、全職員の協力で何とか乗り切りました。当院の中心的機能となるリハビリテーション医療、神経難病センター、糖尿病内分泌代謝センターなどの慢性期医療と、呼吸器外科、整形外科を中心とする急性期医療を両輪に患者数の減少を最小限に食い止め、後半には回復の兆しが見えてきました。学生教育においても、医学部、保健医療学部、薬学部から延べ3,000人以上の実習に対応しております。本年も、当院は地域の皆様にとつての「かかりつけ医のような大学病院」でありたいという思いで、職員一同、全力でがんばってまいります。何卒一層のご指導とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学熱海病院

病院長 池田 佳史

慶應義塾大学卒、医学博士。慶應義塾大学客員教授。日本消化器外科学会認定指導医・消化器外科専門医、日本外科学会認定指導医・外科専門医。



2021年は、前年に続き新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう一年となりました。重点医療機関として中等症以上の患者様を受け入れ、コロナワクチンの個別接種など病院の総力を挙げて取り組みました。また、7月3日に発生した伊豆山土石流

災害では、傷病者の受け入れや避難所へ医療専門職を派遣するなどして、災害拠点病院として地域医療に貢献しています。今後の病院としての目標は、「がん診療の充実」、「救急医療体制の整備」、「予防医学の拡大」を挙げています。「がん診療の充実」は、緩和病棟の設置、ロボット支援手術や放射線治療の開始を目標といたします。「救急医療体制の整備」は、救急科を再開し、令和3年度に受賞した救急医療功労団体知事表彰にはずかしくない体制を整備していきます。「予防医学の拡大」は熱海周辺のみならず、世界から受診いただける体制を整えていきたいと思っております。本年も皆様方のご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

山王病院

病院長 藤井 知行

東京大学卒、医学博士。前東京大学産婦人科主任教授、日本産科婦人科学会監事・前理事長、東京都産科医療協議会会長、国際医療福祉大学大学院・医学部教授、国際医療福祉大学グループ産婦人科統括教授。



当院は、1937年の創設以来、オープンで安心な、思いやりのあるプライベートホスピタルとして歴史を築いてきました。現在は、国際医療福祉大学の臨床医学研究センターの1つとして歩を進めております。わが国では、新型コロナウイルス感染症の新規患者数は昨年12月時点では大幅に減少していましたが、他国では感染拡大が収まる気配がありません。新たな変異株としてオミクロン株が現れ、今年に入ってさらに私たちの健康を脅かし続けています。そうした状況のなか、病院は感染者の受け入れやワクチン接種への協力で、大きな負担を強いられています。しかし、弱音を吐いているときではなく、今こそ、私たち医療者の矜持が問われているときだと考えます。当院では改装工事が進んでおり、病院機能の強化が図られています。今年一年、どうぞよろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉リハビリテーションセンター

センター長 下泉 秀夫

徳島大学卒、医学博士。元栃木県身体障害者福祉センター医務科長。国際医療福祉大学大学院教授。

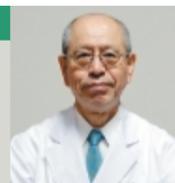


国際医療福祉大学大田原キャンパス内にある社会福祉法人邦友会の各施設には、多くの障害児者、高齢者、児童が入所・通所しています。昨年は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、大学の協力も得て、職員、利用者は早めに予防接種を受けることができました。また、グループ外の実習協力施設での学生の実習受け入れが困難な状況のなか、学外実習が限られたため、当センターをはじめとする邦友会施設では、例年を大きく上回る受け入れに協力させていただきました。学生には実習前・実習中の行動自粛や事前のPCR検査などを求め、実習中も感染対策に努めていただき、学生、施設利用者ともに1人の感染者も出さずに終えることができました。大学の各学科、学生の協力に感謝いたします。引き続き、新型コロナウイルス感染症への警戒と備えが求められますが、当グループの一員としての結束と強みを生かし、この難局を邦友会各施設で連携して乗り越えていきたいと思っております。本年も、ご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

高木病院

病院長 外 須美夫

九州大学卒、医学博士。九州大学名誉教授、九州地区生涯教育センター長。日本麻酔科学会認定麻酔科専門医。



大川市は福岡県の南西部に位置し、北は筑後川、西は有明海に面しております。当院は、この地域の基幹病院としての使命をはたしながら、教育関連施設として隣接する本学大川キャンパスの学生を中心に、数多くの臨床実習生を受け入れています。昨年度からは成田の医学部からも4年生を中心に前期・後期それぞれ20数人の臨床実習生が来てくれるようになりました。学生たちは病院近くに寮住まいをしながら、誘惑の少ない静かで清浄な環境で勉学に励んでいます。学生に聞くと、職員がみんなやさしいと言ってくれますが、何より職員食堂の料理がおいしいと評判で、それが実習参加意欲にプラスとなっているようです。夏には、ここ大川の地で本学学会学術大会が開催される予定です。多くの方のご参集を楽しみにしています。本年も福岡山王病院、福岡中央病院ともどもよろしくお願い申し上げます。

新宿けやき園

施設長 佐藤 潤

中央大学卒。元厚生労働省社会・援護局消費生活協同組合業務室長、同障害保健福祉部施設管理室長、同関東信越厚生局総務課長。



当園は、障害者入所施設を併設する個室ユニット型の特別養護老人ホームです。都庁の方針で重度身体障害者の入所施設は区に1か所とされているため、新宿区で唯一の存在であるとともに、地域の障害者等の福祉避難所という重責を担っています。開設14年目を迎え、障害者支援施設の皆様は加齢により支援区分は6に見直され、医療依存度も一層高まり、支援員は張り詰めた毎日を送っています。特養は入所要件が要介護3以上とされてから在所期間が短縮し、相談員が稼働率維持のため入所待機者実態調査に奔走しています。さらに、新たな感染症により入所者生活に豊かさをもたらしていたボランティアとの交流が途絶え、アクティビティの重要性を痛感しています。2022年も緊張の日々となりますが、適切に情報を共有し、事故防止や職員の健康・安全の確保等円滑な施設運営に努めていく所存です。

各キャンパスの学生たちが思い思いに活躍するクラブ・サークルをご紹介します。

社会福祉研究部あじさい (大田原キャンパス)



●太陽の里福祉会ボランティアで、プレゼントに製作したカレンダーなどを前に、参加した学生たち

最大規模200人が参加、学内最古の歴史

私たちは、大田原キャンパス社会福祉研究部『あじさい』です！あじさいは国際医療福祉大学が開学した1995年に誕生した学内で最も古い歴史を持つボランティアサークルで、今年設立27年目を迎えました。また1年生から4年生まですべての学科の学生約200人が在籍しています。これはキャンパスで最大規模です。

本学の学生は、全員が医療施設や福祉施設で働くことを目的として、さまざまな資格を取得するために毎日勉強していますので、人のために役立つことを何かやりたいという気持ちが旺盛です。特にあじさいに所属している学生はその気持ちが強く、設立当初から積極的にボランティア活動に参加してきました。



●障がい児支援施設「なすの園」のクリスマス会でプレゼントする未就学児向けのハンドベルを手に

音楽療法や付き添いも

活動内容は、主に小さなお子さんやお年寄りなど障がいをお持ちの方に対するボランティアですが、ただボランティア行事に参加するだけでなく、部員自身で企画したプログラムを施設におじゃまして利用者の方々とレクリエーションを行い、充実した時間を過ごして楽し

んでいたことを目的としています。たとえばお子さんと楽器を演奏したり音楽に合わせて体を動かして音楽療法を一緒に行ったり、発達障害のお子さんをお持ちの保護者の団体に対して、託児やレクリエーションの付き添いなどを行ったりしています。



●「なすの園」の小中学生向けハンドベルを手に

地域との連携 先輩たちの財産

地域の方々からもたくさんお声を掛けいただいておりますが、それはこれまで在籍していた先輩方が設立当初から行ってきた活動や構築してきた

施設との連携や深めてきた多くの方々との親睦という、残してくれた大きな財産があるからなのだ、強く実感しています。

新型コロナウイルスの影響で思うように活動が行えないこともありますが、これから入学してボランティア活動を頑張りたいと参加してくれる学生のためにも、あじさいの伝統を引き継いでさらに発展させていきたいと考えています。



●「なすの園」のクリスマス会でプレゼントするハンドベルの製作

一人ひとりが輝ける場所

ボランティア活動に興味のある方、多くの学生と交流したい方は、ぜひ私たちと一緒にやってみませんか？自分の学科以外の学生や先輩とも仲良くなれるため、先輩たちはボランティアの相談だけでなく勉強や学生生活の相談にも乗ってくれます。あじさいは一人ひとりが輝ける場所です。みなさんの参加をお待ちしています！

保健医療学部 作業療法学科 2年 市川 桜

[令和3年度 学位記授与式・卒業式 / 令和4年度 入学式]

令和3年度学位記授与式・卒業式

■学部／大学院 学位記授与式

- ・大田原キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年3月11日 (金) 10：20～
会場：大田原キャンパス 那須アスリーナ(体育館)1階
- ・成田キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年3月13日 (日) 10：20～
会場：成田キャンパス 体育館
- ・東京赤坂キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年3月12日 (土) 10：20～
会場：東京赤坂キャンパス 講堂
- ・小田原キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年3月10日 (木) 10：20～
会場：小田原キャンパス 本校舎6階講堂
- ・大川キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年3月8日 (火) 13：00～
会場：大川キャンパス 講堂

■卒業式

- ・塩谷看護専門学校
日時：令和4年3月3日 (木) 10：00～
会場：塩谷看護専門学校 講堂

令和4年度入学式

■学部／大学院 入学式

- ・大田原キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年4月4日 (月) 10：20～
会場：大田原キャンパス 那須アスリーナ(体育館)1階
- ・成田キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年4月3日 (日) 10：45～
会場：国際医療福祉大学成田病院 成田国際ホール
- ・東京赤坂キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年4月2日 (土) 14：00～
会場：東京赤坂キャンパス 講堂
- ・小田原キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年4月5日 (火) 10：20～
会場：小田原キャンパス 城内校舎 体育館
- ・大川キャンパス (学部・大学院)
日時：令和4年4月7日 (木) 11：00～
会場：大川キャンパス 講堂

■入学式

- ・塩谷看護専門学校
日時：令和4年4月7日 (木) 10：00～
会場：塩谷看護専門学校 講堂

式典内容、保護者の出席の可否等、詳細については確定次第ご連絡いたします。また、新型コロナウイルスの感染状況により、変更が生じる可能性があります。

2～3 **特集1 新春のごあいさつ** 高木邦格理事長 / 大友邦学長 / 三浦総一郎大学院長

4～5 **特集2 笹沼澄子先生を偲ぶ会** 笹沼先生の業績とあゆみ

6～7 **トピックス** 新型コロナウイルス感染者の半数に変異株 / 福岡シミュレーション医学センターで結紮王コンテスト / 小田原市と本学の代表者懇談会開催 / 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委から感謝状 / 医学部5年生、USMLE Step1に相次いで合格 / サポートハウス那須の通所者の切り絵作品を地元スターバックス店内に展示

8～9 **キャンパスレポート** 大田原キャンパス＝薬学科の村田さんに警察から表彰状 / 理学療法科学学会学術大会で3人の学生が発表、成田キャンパス＝医学部の村井さんに日本解剖学会関東支部会から大会長賞 / 医学部の立花さんが同時通訳コンテストで3位入賞、東京赤坂キャンパス＝市民公開講座を開催、小田原キャンパス＝第16回運動会を開催、大川キャンパス＝学生、教員がテレビCM制作

10～11 **施設インフォメーション** 国際医療福祉大学病院 / 塩谷病院 / 三田病院 / 成田病院 / 市川病院 / 熱海病院 / 山王病院・山王バースセンター

12～13 **施設インフォメーション** 各病院長の新春のごあいさつ

14 **キャンパスプラス1 クラブ・サークル紹介** 社会福祉研究部あじさい(大田原キャンパス)

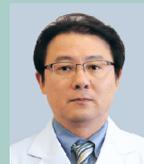
15 **学位記授与式・卒業式と入学式の予定**

16 **2月の市民公開講座 / 春のオープンキャンパス日程**

市民公開講座のご案内

国際医療福祉大学の附属病院で開催予定の市民公開講座をご紹介します。

開催日	施設	講演テーマ、講師
1月29日(土) 14:00~15:30	 国際医療福祉大学病院 (B棟5階 講堂)	「最近の肺がん治療について～知ってほしい肺がんの新しい薬～」 講師：山沢 英明 呼吸器内科部長、国際医療福祉大学 病院教授 第2部のワンポイントアドバイスでは、呼吸器内科 荒川 伸人副部長が新型コロナウイルス感染症に関する最新情報やwithコロナ時代をよりよく過ごすための注意点について解説します。
2月19日(土) 13:30~15:00	 国際医療福祉大学 成田病院 (健診棟4階 成田国際ホール)	「50歳を迎えてから考えるべきこと ～男性更年期から前立腺がんまで～」 講師：久末 伸一 国際医療福祉大学 病院教授 この20年で大きく様変わりしている「前立腺がん」の診断法・評価・治療についてわかりやすく解説します。また、働く世代にとって見逃せない「男性更年期障害」。男性ホルモンが低下することによって起こるこの疾患は、前立腺がんと違って予防が可能です。人生の後半戦を元気に楽しく生きるためのヒントをお話します。
2月19日(土) 14:00~15:30	 国際医療福祉大学塩谷病院 ※会場は 国際医療福祉大学 塩谷看護専門学校 講堂	「下肢静脈瘤一足がだるい・むくむ・つる事はありませんか?」 講師：地引 政利 血管外科・外科部長、国際医療福祉大学 病院准教授 下肢静脈瘤とは足の静脈の弁が壊れてしまう血管の病気で、足の血管がポコポコ浮き出ている、よく足がつる、むくむ、だるいなどはこの病気のサインです。講座では、下肢静脈瘤の症状と最新の治療法であるレーザー焼灼術について、わかりやすくお話します。



座長(司会)
宮崎 淳
国際医療福祉大学
医学部腎泌尿器外
科学主任教授、同
大成田病院・腎泌
尿器外科部長

市民公開講座は、新型コロナウイルス対策を徹底して開催していますが、今後の状況次第で中止、延期する場合がございます。各施設のホームページにて最新の情報をご確認ください。

2022年3月 春のオープンキャンパスのご案内

2022年3月に各キャンパスで開催する『春のオープンキャンパス』の日程が決まりました。

新型コロナウイルス感染対策を徹底し、事前予約制のうえ対面形式で実施する予定です。

2023年度受験に向けた最初のイベントですので、新高校3年生・新高校2年生ならびに保護者の皆様のご参加を歓迎いたします。



●総合ガイダンス

学科の特長や資格取得のプロセス、キャンパスライフ、入試制度など、本学の学びをライブで体験していただける絶好の機会です。来場者プレゼントなど参加特典もあります。



●個別相談コーナー

詳細はホームページでご確認のうえ、ぜひ、ご参加ください。

※新型コロナウイルス感染状況により開催形式を変更する場合があります。

<https://www.iuhw.ac.jp/oc/>



大田原キャンパス	成田キャンパス	東京赤坂キャンパス	小田原キャンパス	大川キャンパス
3/26(土)	3/20(日) ※医学部除く	3/21(月・祝)	3/26(土)	3/27(日) お仕事フェア

広報誌 IUHW 128 2022年1月25日 発行:学校法人 国際医療福祉大学 ホームページ <https://www.iuhw.ac.jp/>

【大田原キャンパス】栃木県大田原市北金丸2600-1 Tel.0287-24-3000
 【成田キャンパス】千葉県成田市公津の杜4-3 Tel.0476-20-7701
 【東京赤坂キャンパス】東京都港区赤坂4-1-26 Tel.03-5574-3900

【小田原キャンパス】神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) Tel.0465-21-6500
 【大川キャンパス】福岡県大川市櫻津137-1 Tel.0944-89-2000
 編集:広報部 デザイン:野佐デザイン